

城南区子どもプラザ利用保護者への調査結果報告

菅 祐 子 益 田 仁

A Survey of “Jonan Childcare Support Center” Users.

Yuko Suga

Jin Masuda

1. はじめに

「地域や家庭の子育て機能の低下」や「保護者の育児不安・負担の増大」等に対応するため、地域の身近な場所で子育てを支援する「地域子育て支援拠点事業(以下、拠点事業)」が全国各地で展開されている。その数は全国7,431か所であり(厚生労働省 2018)、福岡市においては「子どもプラザ」の名称で市内14か所に設置されている。市が「子どもプラザ事業」として運営を各種団体に業務委託しており、受託団体は大学や幼稚園、保育園やNPO法人、市民団体等である。

この事業には2つの源流がある。ひとつは1993年に創設された保育所地域子育てモデル事業であり(1995年に地域子育て支援センター事業に名称変更)、もうひとつは2002年に創設された集いの広場事業である。地域子育て支援の施策には様々な曲折があり、その流れは日下・笠原(2016)において整理されているが、社会情勢の移り変わりや他事業とのすみ分け・統合等による変化を遂げながら、拠点事業は現在「地域子ども・子育て支援事業」の一つに位置付けられ展開されている。

城南区子どもプラザ(以下、プラザ)が開設されたのは2004年であり、開設以来、市民団体である「地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会」が運営を担ってきた。2017年度の年間来場者数は21,011人、2018年度は20,253人と一日平均30組~40組の親子が来場している。来場した親子は、集い、遊び、話をし、相談する中でつながっていき、プラザは地域における子育て資源のひとつとして、多様な役割を担ってきた。

地域子育て支援拠点事業については、「地域子ども・子育て支援事業」の運営団体の全国ネットワーク組織の全国組織であるNPO法人子育てひろば全国連絡協議会が大規模なアンケート調査を実施している。実施団体の概要・利用状況・保護者の属性や利用による変化・保護者同士のつながりなど、多様な調査結果が明らかにされており、事業実施にあたってのヒントや留意点が数多く報告されている¹⁾。城南区子どもプラザもそれらの調査に協力してきた経緯があるが、それらは事前に設計され

た調査票を来場者複数名に配布・回収して返送するだけであり、その結果も全体的に集計されたものしか分からなかった。そのため、自身のプラザの特徴や利用者のニーズ等はこれまで今一つはっきりとしてこなかった。例えば、利用者のニーズについて考えてみると、全国の様々な地域のデータが合算されたものだけでは、福岡市という都市における拠点事業の方向性を知ることはできない。都市規模や利用者の特性等、事業が展開される地域によってその位置づけや展開方針は異なってくると考えられる。そこで、プラザ独自の利用保護者調査をプラザと中村学園大学とで計画し、2018年に実施した。本稿では第1に、その調査結果の概要を確認しながら、プラザ利用に関する意見やニーズの把握を行うこと、第2に全国調査の結果と簡単な比較を行うことを目的とする。

2. 調査の概要と結果

2-1 調査概要

【目的】①プラザ利用に関する保護者の意見を調べること、②プラザ利用保護者の生活・子育て上のニーズを把握すること、③利用保護者の子育てネットワークを調べること。

【日時】2018年11月30日~12月7日のうち5日間(平日のみ、総計12時間半)。

【方法】筆者ら・プラザスタッフ(延べ5~6名)・学生(延べ7名/中村学園大学教育学部3年次および4年次生[児童福祉各論受講学生])が利用者に調査の依頼を個別に行い、調査票を手渡した(自記式アンケート調査)。なお、調査日はプラザ入口に調査の説明を掲示し、来場者に説明を行い周知した。その上で、原則として調査日時内に来場した保護者すべてに調査協力を打診し、了承を得られた保護者を対象とした。依頼したすべての保護者が回答に協力してくれた。

【回収票数】47票。うち男性票2名(全国調査では母親のみを対象としている)。

なお、調査内容は、福岡市(2013)、NPO法人子育てひろば全国連絡協議会(2016, 2018)、立山(2011)を

参考に作成した。主な内容は、属性項目・配偶者の育児参加・サポートネットワーク・プラザ利用頻度や満足度・各種子育て支援事業の利用状況・子育て情報の入手先や欲しい情報・必要とする子育て支援サービス等である。

2-2 調査結果

2-2-1 属性

属性項目の結果をまとめたものが表1である（表中の括弧内は度数）。

2-2-2 公的サポートの認知・利用状況

図1は病児保育・一時保育・一時預かり・ファミリーサポートの4つの事業の認知・利用経験・利用意向を尋ねた結果である（数値は度数）。各事業とも、ある程度認知はされているが、利用経験はほとんどないことが分かる。

2-2-3 プラザ利用および子育て情報について

表2（上）は城南区子どもプラザ利用についての基礎的な質問の結果を、（下）は子育て情報についての質問結果である。表2（上）を確認すると、プラザの認知が市や区の広報や口コミ等でなされていること、利用頻度は週に1～2回がボリュームゾーンであること、プラザへの評価は肯定的な回答が多数であることが分かる。

表2（下）から、様々な媒体から子育てに関する情報

を入手していること、またプラザ・サロンが情報収集の重要な場となっていることが分かる。ちなみに、その他の回答として、「区のメール」「インスタグラム」が挙げられた。また子育てに関して欲しい情報を見てみると、遊びやイベント系の回答と、病気・発育・しつけ・園情報など専門知識系の回答に2分することができる。

2-2-4 子育てについての悩み、欲しい支援について

図2（上）は子育て上の悩みを尋ねたものであり、多い順に「食事・栄養」「しつけ」「遊ばせ方」「発達・発育」「くせや性格」となっている（上下とも3つを上限とした複数回答、数値は度数）。こうした悩みは、表2で確認した欲しい情報の背景となっていることが類推される。図2（下）は欲しい支援について尋ねた結果であり、遊びやイベント、経済的支援、情報交換の場、気軽な保育サービス等が比較的ニーズが高いことが分かる。

子育ての悩みに関するその他の自由記述としては、「転勤のタイミング（保育園をどうするかなど）」「子どもとの関わり方」「薬や予防接種について」「生活リズム（睡眠）の調整の仕方について」「産後の精神状態が不安定で薬を服用しているが、それが回復するのかどうかへの不安」が挙げられた。また、欲しい支援に関するその他の自由記述としては、「保育園に入りやすくしてほしい」「保育所の充実」「町全体で子育てをするような雰囲気してほしい」「子どもと一緒に参加できる、ヨガやダンス

表1 属性項目の結果

項目	結果				
	女性	男性			
性別	96% (45)	4% (2)			
年代	20歳代	30歳代	40歳代以上		
	28% (13)	59% (28)	13% (6)		
居住地	城南区	中央区	早良区	福岡市外	
	81% (38)	13% (6)	4% (2)	2% (1)	
居住年数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満
	23% (11)	40% (19)	17% (8)	11% (5)	9% (4)
出身地	福岡市内	福岡県内	九州内	九州外	
	36% (17)	17% (8)	28% (13)	19% (9)	
就労状況	フルタイム (産休育休含む)	パート・ アルバイト	主婦・主夫		
	38% (17)	7% (3)	55% (25)		
子の人数	1人	2人	3人		
	74% (35)	21% (10)	4% (2)		
第1子の年齢	0歳	1歳	2歳	3歳以上	
	23% (11)	43% (20)	9% (4)	48% (23)	
家族構成	核家族	3世代家族			
	98% (45)	2% (1)			

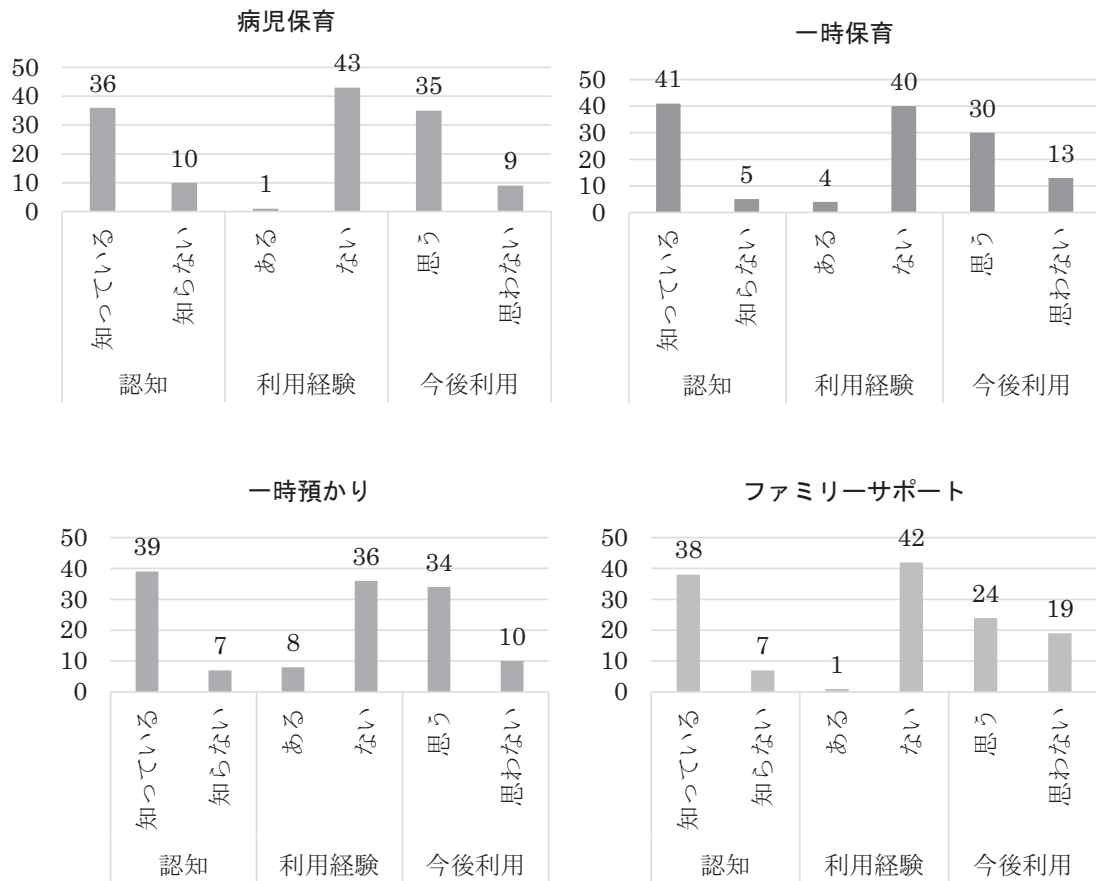


図1 各種子育て支援サービスの認知・利用状況

表2 プラザについての質問(上) および子育て情報の入手先・欲しい子育て情報(下)

プラザをしたきっかけ	% (N)	プラザ利用頻度	% (N)	プラザ満足度	% (N)
市や区の広報	44.7 (21)	はじめて	2.1 (1)	満足	76.6 (36)
ホームページ	12.8 (6)	年に数回	4.3 (2)	やや満足	21.3 (10)
各種検診	17 (8)	月に1-2回	27.7 (13)	どちらでもない	2.1 (1)
家族や知人の紹介	21.3 (10)	週に1-2回	46.8 (22)		
		週に3-4回	17 (8)		
		ほぼ毎日	2.1 (1)		

子育て情報の入手先	N	欲しい子育て情報	N
プラザ・サロン	38	遊び場・施設	35
インターネット	33	イベント	34
近隣・知人・友人	30	食事・栄養	28
親族	28	しつけや勉強	28
保護者仲間	23	園情報	27
雑誌・育児書	21	発育・病気	24
園・学校	19	サークル	12
市広報やパンフレット等	17	手当・公的助成	10
市区のHP	15	講座・講演会	10
フリーペーパー	14	一時預かり	7
区役所等	9	相談窓口	2
TV・ラジオ・新聞	9		
その他	2		

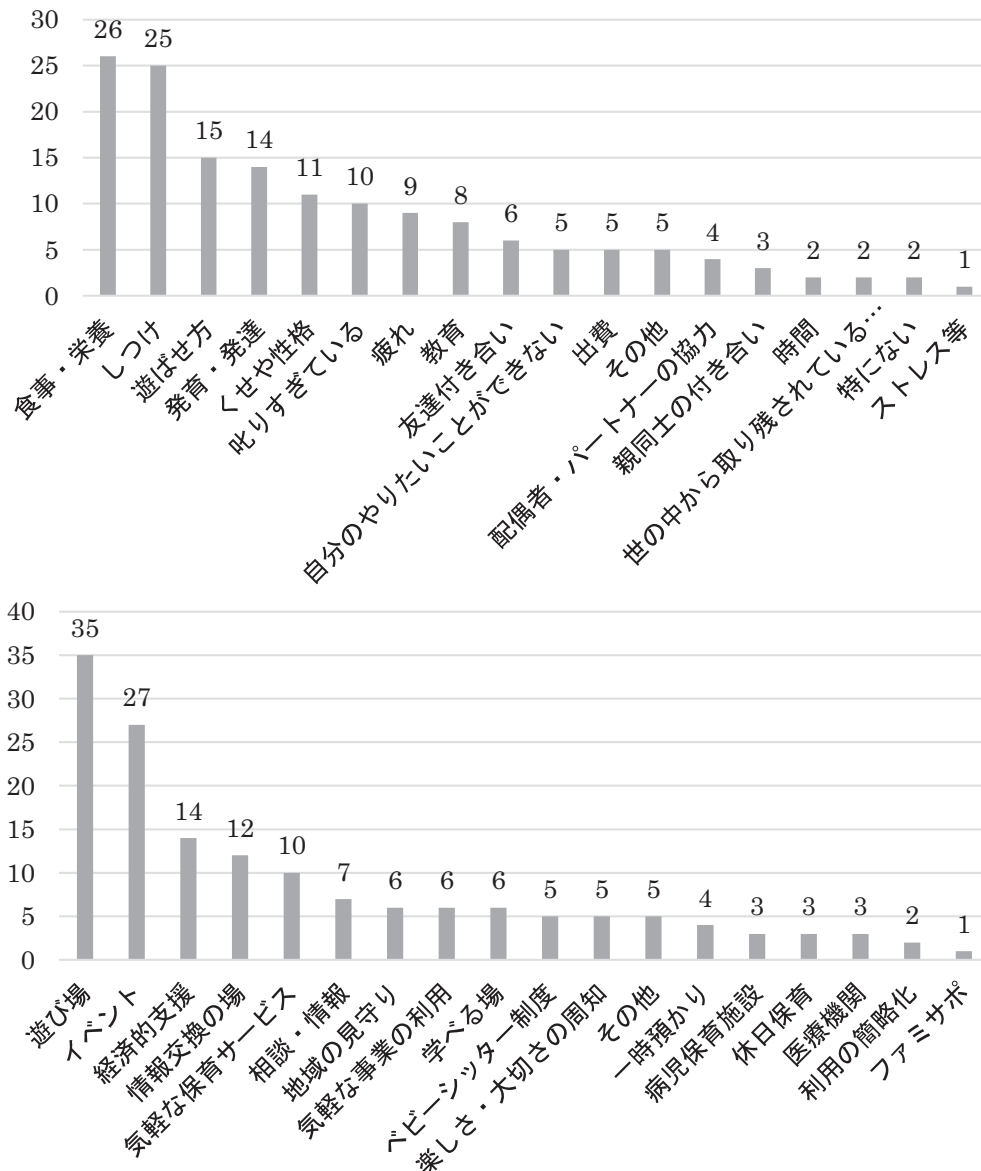


図2 子育ての悩み (上) および欲しい支援 (下)

などの体を動かすお教室に参加したい。私の体力の方が足りないので、子どもについて行けるように。」「男性も育児休業などがとりやすくなるような支援」が挙げられた。

2-2-5 自由記述

調査票末尾の自由記述欄に記された内容は次の通りである (表3)。

3. プラザ利用による変化——全国調査との比較

プラザへの評価や、プラザを利用することによる親子の変化は、NPO法人子育てひろば全国協議会 (2018) が報告している。以降では全国調査 (N=542) と簡単な比較を試みたい。

図3はプラザおよびプラザ利用による変化について尋ねた結果を、全国調査と同様の方法で得点化したものの平均値を比較したものであり、図中の*は逆転項目を反転させたものを示す。図3 (上)を確認すると、全国調査とほぼ同様の評価が得られていることが分かる。図3 (下)はプラザの利用による親子の変化に関して、保護者に回答してもらった結果を比較したものである。結果をみると、プラザへの評価と同じく、おおよそ同様の結果が得られている。ただし、いくつかの項目でプラザ利用者が低くなっており、それには2つの可能性が考えられる。ひとつは、城南区子どもプラザを利用する保護者は育児休業中もしくは求職中である割合が高く²⁾、それゆえ何らかの変容に至るほど長期間あるいは頻繁にプラザを利用できていない可能性があることである³⁾。もうひとつは、調査方法の差に起因するものであり、全国調

表3 自由記述欄への回答結果

長女はプラザが大好きです。家にはないおもちゃや人形でいつも楽しく遊んでいます。今後ともよろしく願いいたします。
小さな子どもでも遊べるすべり台とか階段がほしい
感謝しかありません
保育園を増やしてほしい
働くママのコミュニティがあれば嬉しいです。(保育園活動について)
いつも母親を支える形で、丁寧に優しく相談にのって頂けるので、とても助かっています。職員の方が同じ年齢のお母さんや先輩お母さんへの橋渡しをしてくださいます。また、父親の来所も多く、父親も来所しやすい雰囲気があり、とてもいいと思います。
子どもプラザには、たくさんの種類のおもちゃがあり、とても魅力的なようでなかなか帰れないことも多いですが、ありがたいです。初めて来る際は、産後ナーバスだったこともあるのか、うまく遊べるか迷惑をかけないか、など不安でしたが、来てみれば子どもが勝手に遊んでくれるので助かりました。
公民館などでよみかかせの会などがあり、楽しんでいます。歌遊びなど教えてくれる場があると嬉しいです。
プラザの駐車場をすべての所で作ってほしい。各区にプラザを増やしてほしい。
駐車場(無料)のある子どもプラザを増やしてほしいと思います。
妊娠中に小さな子どもがいるお母さん達と話が出来る機会があったら良かったなと思います。
各公園に0~1歳も遊べる場所がほしい。箱ブランコや、フェンスのついたお砂場など。夜にベビーシートしてくれるサポートがほしい。夫婦で食事しに行きたい。のびのびハイハイさせられる場所がほしい。公民館も月に2度くらいしか子育てサロンがないので
今回のように、お姉さんが遊んでくれるのは嬉しいです。普段あまり一緒に遊ばずに、つい1人遊びが楽しいと思ってもらうと1人でも楽しめる遊びを教えるので、たまにこういう機会があると楽しそうにしている姿を見られて、嬉しくなります。子守り、ありがとうございました。
駐車場90分無料いつも助かっております。ありがとうございます。
とても楽しく利用させていただいています。また、時間を有効に活用できて助かっています。
プラザに来ると子どもが楽しそうで、とても助かっています。ありがとうございます。ないと困る場所です。
1年に1度無料で0~2歳の子を預かってくれる制度がほしい。子どもが生まれた際に500円支払って受けれるとか。おむつもらえとか。ネイルorエステorカットしてくれるとか。
安心して遊べる場所が増えると嬉しい。屋内…買い物ついでに、たくさん動ける広い場所。屋外…車や自転車を気にせず遊べる広い公園のような場所(今もあるけど、すぐ道路へ飛び出しそうで、親は神経を使うので…)
いつも楽しく利用させてもらっています。スタッフの皆さん、ボランティアの皆さんありがとうございます。
プラザのスタッフさんは優しく気軽に相談をきいてくれるので、遊びに来やすく、助かっています。大ほり公園のような小さい子ども遊べる大きな公園が城南区に増えると嬉しいです。
福岡市の子どもプラザや公園はよく整備されていると思う。あとはそれを利用する保護者の心に余裕ができる工夫が必要だと思う。祖父母が忙しくしており、祖父母に安心して預けられないことなど
福岡市のイベントを割と期日近くになって知ることが多いので1つのサイトにまとめて載せてほしいです。
保育園をもっと増やすことを切に願います。働きたくても働けない現状があるのではないかと感じています。保育士さんへの手厚い補助も必要と思います。乳幼児期は、人間の土台作りです。ここに、教育にお金と時間を費やすことは、きっと未来を担う人材育成へとつながるはずですが、日本独自の改革が必要ですが、やはり北欧などの幼児教育のよい部分、そして、大人がもっと家にいれるような環境整備は必須かと思います。(中村学園の学生さんへ) これからの子どもたちを豊かに、そして笑顔いっぱい育てていきましょう。夢に向かってがんばれ!!

査では運営団体が任意の日時に任意の保護者を選定して回答を依頼しているため、今回の対象者よりもプラザ利用経験が豊富な(もしくは肯定的な考えをもつ)対象者が選ばれた可能性が考えられることである。

4. おわりに——調査結果を踏まえて

ここまで、調査結果の概要を確認してきた。以下では、調査結果について簡単な考察を行いながら、今後のプラ

ザ運営への提案を記すことで、本稿を閉じたい。

まず、子育て情報の入手先の結果(表2)からは、プラザが情報収集の重要な場となっていることが明らかになった。全国調査と同じくインターネットでの情報入手の割合が多いことから、プラザからも今後はSNSなどを使って情報を発信していく必要があると考えられる。子育てに関して欲しい情報については、遊びやイベント系と、病気・発育・しつけ・園情報など専門知識系の回答とに分かれていたことがわかった。情報を整理してプ

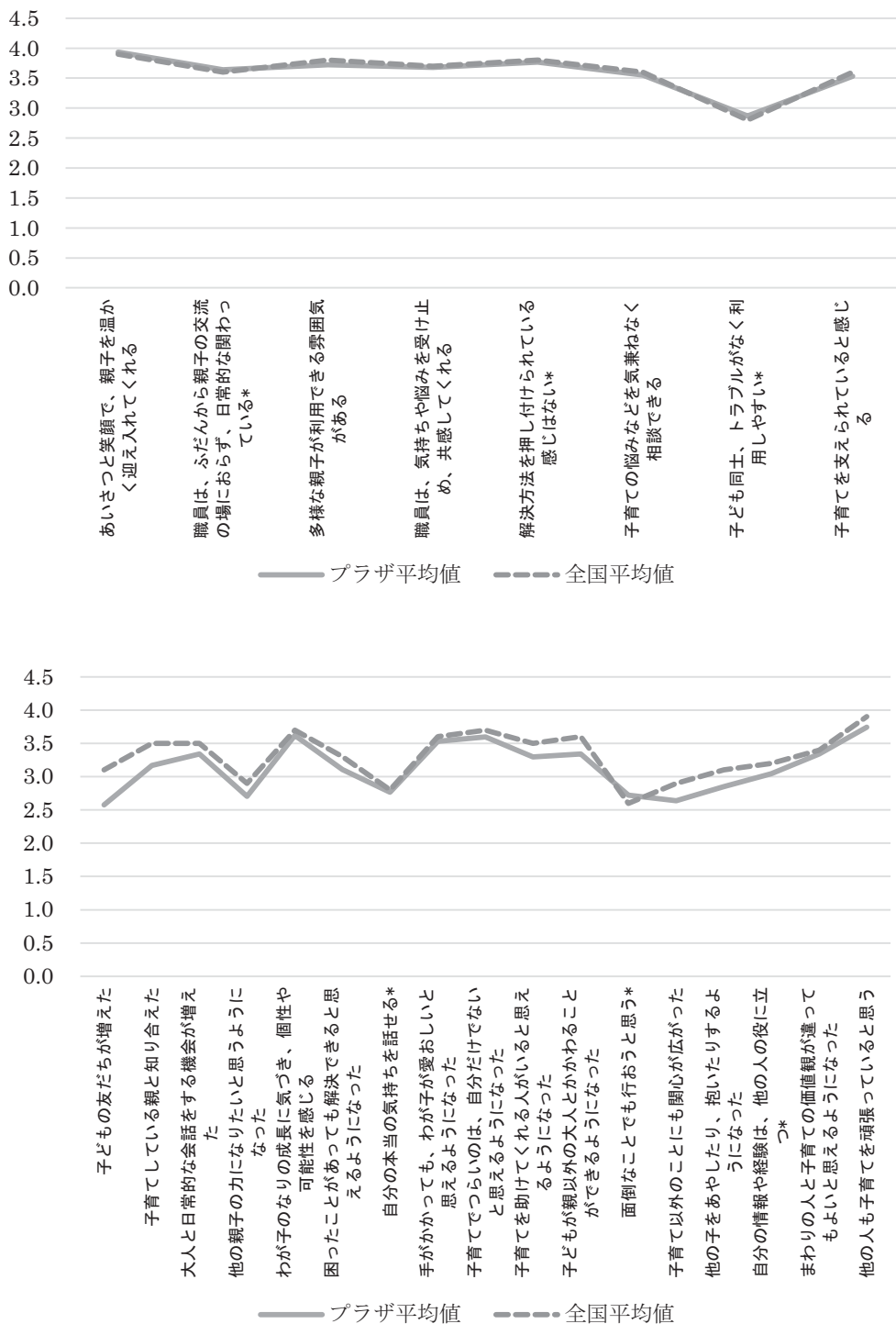


図3 プラザに対する評価（上）および利用者の自己変容についての評価（下）の比較（全国／城南区子どもプラザ）

ラザの利用者によりわかりやすく周知することで、子育て負担、不安感の減少につながるのではないかと考えられる。

また、病児保育・一時保育・一時預かり・ファミリーサポートの預かり事業の利用経験の少なさ（図1）は、知らないところで知らない人に子どもを預けることへの親のハードルの高さがあるのではないか。日頃から利用している子どもプラザで預かり事業が行われることで利

用しやすくなるのではないかと考えられる。最後に、子育て上の悩みや欲しい支援（図2）に関しては、情報の提供のみではなくプラザ内で、乳幼児親子がより気軽に楽しむことができる遊びや講座を提供することと、子育て上の負担や悩みを軽減できるような専門的な相談機能を増やしていくことが必要だろう。具体的にはプラザにおいての一時預かりや城南区にひとつしかないプラザに出向くことが難しい親子に支援していけるような機能の

追加が必要と考えられる（城南区子どもプラザは現在城南区内の2か所の公園にプレーパークとして出向いていくアウトリーチを行っている）。今回の調査結果をプラザの運営にフィードバックすることで、利用者のニーズや実態に即した拠点事業の実践を目指していきたい。

注

- 1) 事業実施の具体的なヒントとして、「安心でき、また交流を促す雰囲気醸成・環境設定」「支え合い、育ちあう場や機会の提供」「気づきを促し、強みを発揮できる場の提供・環境設定」などが挙げられている。詳細はNPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2018）を参照。
- 2) 全国調査の結果では、育児休業中の母親が18%、主婦が71.9%、就労中の母親が9.8%となっている（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 2016：39）。今回の調査結果とは回答の選択肢が異なるため一概に比較することはできないが、表1にある就労状況と比べると、プラザ利用保護者の方が就労率が高いことが分かる。育休を利用している保護者の多くは、1年未満しかプラザを利用できない場合が多い。
- 3) 城南区子どもプラザの利用年数は保育所利用の増加や幼稚園の未就園児クラスの増加で年々短くなる傾向にある。

謝辞

今回のアンケート調査に快くご協力いただいた子どもプラザの利用者の皆さま、プラザスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

文献

- NPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2016）『地域子育て支援拠点事業における『つながり』に関する調査研究事業報告書』、2019年11月26日アクセス（https://kosodatehiroba.com/new_files/pdf/away-ikuji-hokoku.pdf）。
- （2018）「地域子育て支援拠点の寄り添い方支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究」2019年11月26日アクセス（https://kosodatehiroba.com/new_files/mhlwchosa/2018houkoku-zentai.pdf）。
- 日下慈・笠原正洋（2016）「地域子育て支援策の変遷——支援者の専門性を中心に」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要』48：7-22。
- 厚生労働省（2018）「地域子育て支援拠点事業実施状況」、2019年11月26日アクセス（<https://www.mhlw.go.jp/content/000519569.pdf>）。
- 立山徳子（2011）「都市空間の中の子育てネットワーク——『家族・コミュニティ問題』の視点から」『日本都市社会学会年報』29、93-109。
- 福岡市（2013）「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、2019年11月26日アクセス（http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/41777/1/270127syosibessatu1_Part1.pdf）。